

令和3年2月

魚津市定例記者会見



日時：令和3年2月1日(月) 午後1時30分～午後2時10分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、NHK、KNB、BBT、チューリップテレビ、NICE-TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、民生部長、健康センター所長、企画政策課長

1. 市長からの発表事項

(1) 新型コロナウイルスワクチンの接種について

- ・2月1日付けで新型コロナウイルス感染症対策本部内に「新型コロナウイルスワクチン接種部会」を設置した。市民が速やかにワクチンを接種できるように全庁的な協力体制の下に準備を進めていきたい。組織の体制は部会長が副市長、副部会長が民生部長。設置場所は魚津市健康センター。本日付で職員を1名増員し、一連の準備業務を進める。
- ・対象者別の接種スケジュールについては、1月25日に国（厚生労働省）が示したスケジュールに基づいて実施する。対象者は大きく3つの区分に分かれており、第1グループは医療従事者向け先行・優先接種。第2グループは高齢者向け優先接種。最後にその他の方となっている。その他のグループの中でも基礎疾患を有する者、高齢者施設等の従事者、それ以外の方と優先順位が示されている。それぞれのグループの対象者は、第1グループが約1300人（人口の3%として算出）、第2グループが約14,000人（実数）、その他の方が約26,000人（実数）となっている。接種時期は医療従事者が2月下旬から、高齢者については1月27日の河野担当大臣の発言によると4月以降となっている。なお、高齢者向けの接種案内については年度内に発送の予定。
- ・現時点での最優先事項は、接種会場の確保、医師や看護師の人員の確保。なお、4月からの高齢者へのワクチン接種については、1回目の3週間後に2回目を打たなければならないことを考慮すると、13週間かかるとされている。現在、どこの会場を使ってどのように打てばよいかシミュレーションを行っている。医療機関だけでは困難と思われるので、集団接種会場を設けることも検討している。し

かし、会場が増えると人員の確保やワクチンの搬送などの問題が出てくるため悩ましいところではある。

- ・市民にとって一番必要な情報は、接種会場がどこで、いつ頃から接種できるのかということ。できるだけ早く決定してお知らせしたい。市はこれまで、新型コロナウイルス感染症対策の状況をホームページでお知らせしてきた。今後もワクチン接種についてははっきりした見通しや決定事項があれば順次ホームページでお知らせしていきたい。
- ・予算については、システムの改修、接種券の印刷と発送、予約コールセンターの設置などを想定しており、5,300万円ほどかかる予定。さらに年度内に行われる医療従事者の先行接種に680万円ほどかかる予定だが、まだ額が確定していないため、予算計上を待っている状態である。また4月以降の高齢者向け、その他の方への接種についてはおそらく1億数千万かかると思われるが、これは来年度の予算に計上される。

(2) とやまのユネスコ無形文化遺産巡回展（魚津会場）の開催について

- ・魚津のタテモン行事がユネスコ無形文化遺産に登録されてから5周年を迎えた。同時登録された南砺市の曳山行事と高岡市の御車山祭と併せ、3市連携で「とやまのユネスコ無形文化遺産巡回展」を開催する。すでに南砺市役所で1月25日～2月5日の予定で開催しており、引き続き魚津市立図書館ロビーにおいて2月6日～14日まで開催する。その後、高岡市のクルン高岡で2月16日～27日まで開催の予定。
- ・なお、今年のたてもん祭りの開催については、おそらく保存会や商工会議所で話し合いが持たれ、4月ごろには方針が出ると思われる。（昨年4月15日に中止が決定）

(3) 「魚津市まちづくりフォーラム2021」を開催します

- ・フォーラムは平成24年度から毎年度開催しており、今回で9回目。2月14日（日）の午後に開催する。入場は無料。定員は当初300人を予定していたが、感染症対策のため約半数の140名に変更した。その代りとしてオンラインフォーラムも開催し、YouTube やケーブルテレビを活用して自宅から見ることもできる。会場は新川文化ホール1階の小ホール。雑誌『ソトコト』編集長の指出一正氏による基調講演、パネルディスカッション、市内4つの地域振興会による活動発表などが行われる。

(4) コロナ禍等で特定健診を受けられなかった方に「スマホ de ドック」による簡易健康診断を行います

- ・特定健診の受診者が、コロナ禍の影響もあり例年より減っているため、自宅でできる簡易健康診断を実施する。令和元年度の魚津市の特定検診の受診率は45.4%（平成30年度は44.0%）で県内でも下位。昨年6月に約6,000人に特定検診の受診票を送り、その後も受診勧奨のハガキの送付や電話による呼びかけも行ったが、受診に結びついていないのが現状。対象者は魚津市国民健康保険加入者の40～65歳で、令和2年度の特定健診を受けなかった方（約1,500人）。なお、30歳代の方には従来から特定健診対象年齢前事業として自己負担額500円で同事業を行っている。本日（2月1日）IDが記載された通知書を対象者に発送し、今月末までに検査をしてもらう。

その他 資料添付

- ・富山県くろべ・うおづ暮らし体験会
- ・東京大学体験活動プログラムの実施について

2. 質疑応答の内容

「新型コロナウイルスワクチン接種部会」について

《記者からの質問》

職員を1名増員というのは、新規に採用したのか。

《回答》（市長）

新規採用ではなく、人事異動によるもの。

「ワクチンの冷凍庫の設置場所」について

《記者からの質問》

ワクチンの冷凍庫を設置する場所はすでに決めているのか。

《回答》（市長）

ワクチン接種の会場などが確定しないと決められない。

「ワクチン接種について政府に求めたいこと」について

《記者からの質問》

ワクチン接種について、市として政府（国）に一番求めたいことは何か。

《回答》（市長）

ワクチンがいつ、どれだけの量が、どのように入ってくるのかが重要。あと、市民へ送付する予診票を印刷するため、そのシステムを早く示してほしい。

「ワクチンの集団接種のための医療従事者の確保」について

《記者からの質問》

ワクチンの集団接種会場を設ける場合、各医療機関から派遣してもらう医療従事者が不足する可能性があることについてどう考えているか。

《回答》（市長）

ワクチンの接種ができる医療機関を増やして集団接種会場の数を減らせば、医療機関から派遣してもらう医療従事者の人数は減少する。しかしその場合、ワクチンの運搬などの別の問題が出てくる。すべての可能性や問題点を念頭に置いて、現在シミュレーションを行っている。

「ワクチン接種についての各種数値」について

《記者からの質問》

市民全員にワクチンを接種するために必要な期間や1日あたりの接種人数などについてどのような感想をもっているか。

《回答》（市長）

大変な数である。市民の方にもこの状況を理解していただきたいので、順次情報発信していきたい。

「ワクチン接種についての業務手順」について

《記者からの質問》

ワクチンの接種券は本人の意思に関係なく市民全員に発行する予定か。また、実際に接種に来る人の率は考えているか。

《回答》（市長）

接種の意思の確認は難しいため、全員に発送を予定。接種は義務では無いので、どれだけの人が受けに来るのかはわからない。接種を受けた実績の管理は徹底して行う。

「スマホ de ドックの実施」について

《記者からの質問》

今回40～65歳を対象にスマホ de ドックを実施するのは、従来の30歳代を対象にしていたものの結果が影響しているのか。

《回答》（市長）

今回は40～65歳を対象に行っている特定検診の受診率が低下していることへの対策として実施を決めた。従来の30歳代を対象にしたものの結果は関係していない。